

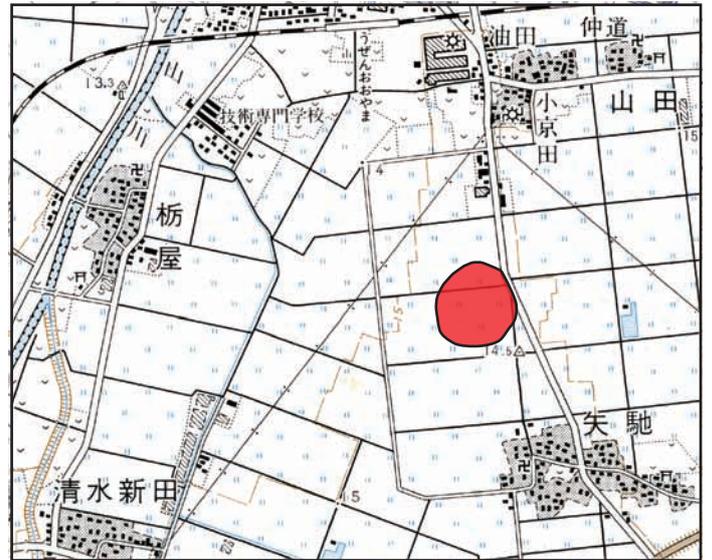
やばせ 矢馳 A 遺跡発掘調査現地説明会資料

2007年9月10日(月)

財団法人山形県埋蔵文化財センター

調査要項

遺跡名	矢馳A(やばせ)遺跡
遺跡番号	1618(山形県遺跡地図)
所在地	山形県鶴岡市大字矢馳字下矢馳
調査委託者	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査原因	日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡)建設事業
調査面積	3,300㎡
現地調査	平成19年5月9日～平成19年9月14日
遺跡種別	集落跡
時代	古墳時代・奈良・平安時代・中世
遺構	竪穴住居跡・溝跡・土坑・井戸跡・ピット
遺物	土師器・赤焼土器・須恵器・木製品・古銭
調査担当者	調査課長 長橋 至 専門調査研究員 黒坂 雅人(調査主任) 調査員 山内 七恵 調査員 吉田 満
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所、庄内教育事務所、鶴岡市教育委員会



遺跡位置図



F区全景(東から)



F区東半(西から)

1 調査の概要

矢馳A遺跡は、昭和31年(1956)、水田への暗渠管埋設などの農業基盤整備に伴う工事によって発見されました。

昭和62年(1987)県営ほ場整備事業(鶴岡西部地区)の実施に先立って山形県教育委員会が行った第1次発掘調査では、古墳時代後期の大規模な集落跡の存在が明らかになりました。

第2次から第4次の発掘調査は、日本海沿岸東北自動車道建設に伴うもので、平成17年度から19年度にかけて行われています。第2次調査は、路線のまわりに新しく設置される農業用排水路と用水管埋設部分について、第3次調査は、道路本線部分約13,000㎡を対象としました。その結果、矢馳A遺跡は、古墳時代の集落の他に、奈良・平安時代の集落や河川、中世の館など、多様な内容を持っていることがわかってきました。

今年度、財団法人山形県埋蔵文化財センターは国土交通省から委託を受け、新たに現在工事用道路として使用されている3,300㎡について発掘調査を実施しました。発掘調査は5月9日から始められ、重機械による表土掘削後、手作業で土を削り、

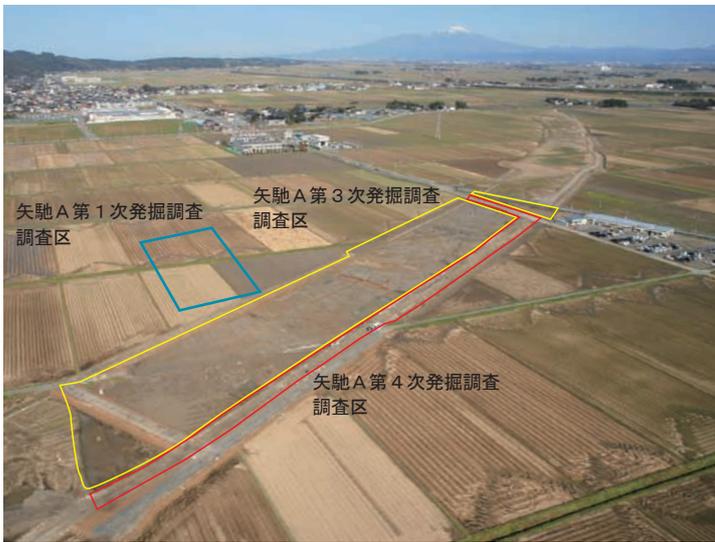
前年度に続いて河川跡、住居跡、溝跡、井戸跡などの遺構を検出することができました。それらを慎重に掘り進めながら、図面や写真に記録しています。また、掘り進める過程では、たくさんの土器や木製品などの遺物が出土しました。それらについても記録したうえ、取り上げています。

本年度得られた資料は第2・3次調査と合わせて整理作業を通じて検討を加え、平成20年度以降に報告書として刊行される予定です。

2 立地と環境

矢馳A遺跡は庄内平野の南西端部に位置し、鶴岡市街地の西方に開けた水田地帯に所在します。この地は、大山川と湯尻川にはさまれた沖積地上に立地し、周辺の地目は水田や畑地で、標高14.5mを測ります。周囲には北に山田遺跡、南に助作遺跡、矢馳B遺跡、西に清水新田遺跡など、古墳時代から平安時代にの人々が生活を営んだ集落跡が数多くあります。

当時このあたりは、付近の河川の氾濫によって自然堤防などの微高地と後背湿地などの低湿地が入り乱れる複雑な地形でし



調査区全景



作業風景

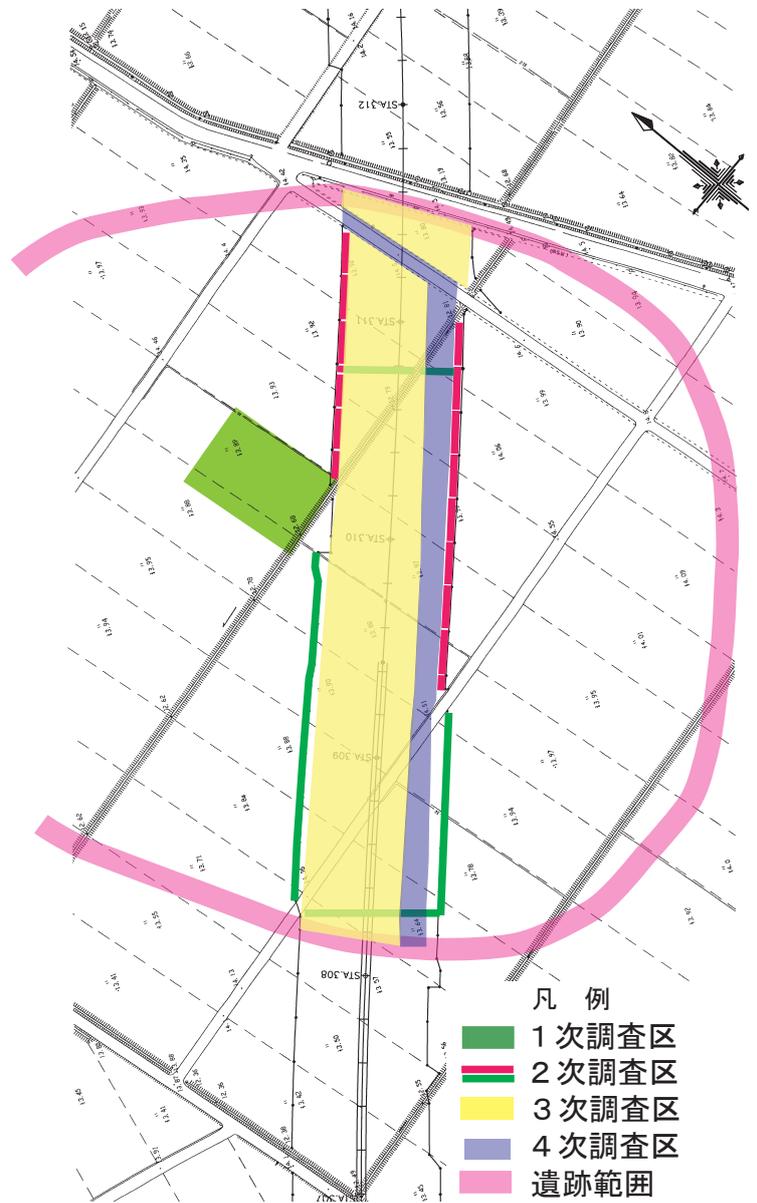
たが、近年の河川改修やほ場整備などによって、大型農業機械に対応した水田として整備され、現在にいたっています。

3 遺構と遺物

今回の調査では、河川跡・溝跡・竪穴住居跡・井戸跡・ピット・板材列などが見つかりました。これらは前年度同様に、調査区東側では奈良・平安時代、中央では中世、西側では古墳時代の遺構や遺物がそれぞれ主体となります。

古墳時代の検出遺構は、河川跡、溝跡が主で、住居跡は見つかりませんでした。今年度新たに検出した河川跡（SG100）からは、その堆積土の中から坏・高坏・甕・壺などの土師器がまとめて出土しています。また、SG100の東側で、遺構確認面から約60cm下がった部分にある炭化物を多く含む粘土層付近から、古墳時代の土師器の甕・高坏・壺・甍などが出土しました。昨年見つかった遺物包含層の続きと見られます。これらは遺構確認面から出土した土師器よりも古い時期のものであることが分かっています。

奈良時代の遺構は、竪穴住居跡と河川跡が見つかりました。竪穴住居跡からは土師器と須恵器の破片が出土しました。河川跡からは完形の須恵器の坏が数点出土しています。平安時代の河川跡からは、「中」という文字が書かれた墨書土器などが出土しました。



調査区概要図（S=1:4,000）

中世の遺構では、昨年度調査した館跡の区画溝の続きが検出されました。区画溝の南、館跡の外側にあたる所から井戸跡が見つかりました。この井戸跡には、板を縦に差し込み、四角に囲んだ井戸枠が残っていました。井戸の掘り方の中から中世陶器の破片が出土しています。また、近世から現代にかけての堰跡からは、古銭などが出土しています。

その他、時代はまだ特定されていませんが、調査区西側で板材列が見つかりました。

4 まとめ

矢馳A遺跡第4次発掘調査は、日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設に係る緊急発掘調査です。今年度は工事用道路部分3,300㎡を調査しました。

今回の調査では、昨年度までに検出された河川跡、館の区画溝、遺物包含層などの南側への広がりを確認することができました。また、新たに古墳時代後期の河川跡、中世の井戸跡、板材列などを検出しました。板材列は、その性格や年代の特定が今後の課題となります。

現地調査終了後、これら3年間の調査で得られた成果を慎重に検討しながら整理作業を進め、報告書にまとめていきます。



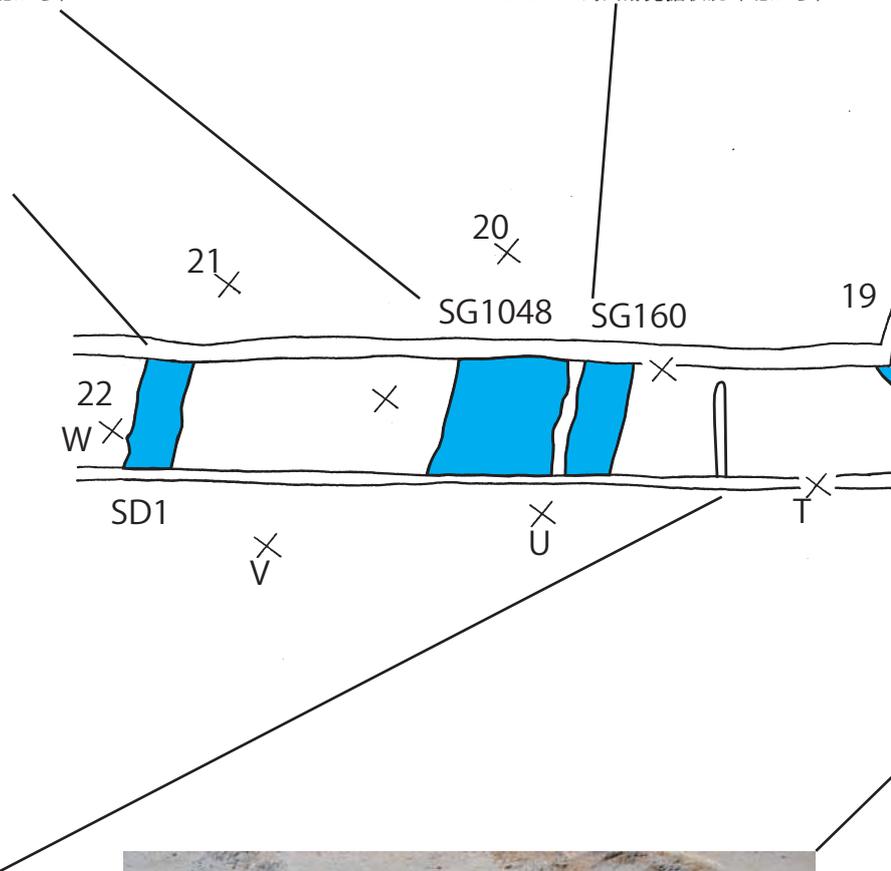
SG 1048 河川跡完掘状況（北から）



SG 160 河川跡完掘状況（北から）



SD 1 近世の堰跡（北から）



板材列（北から）



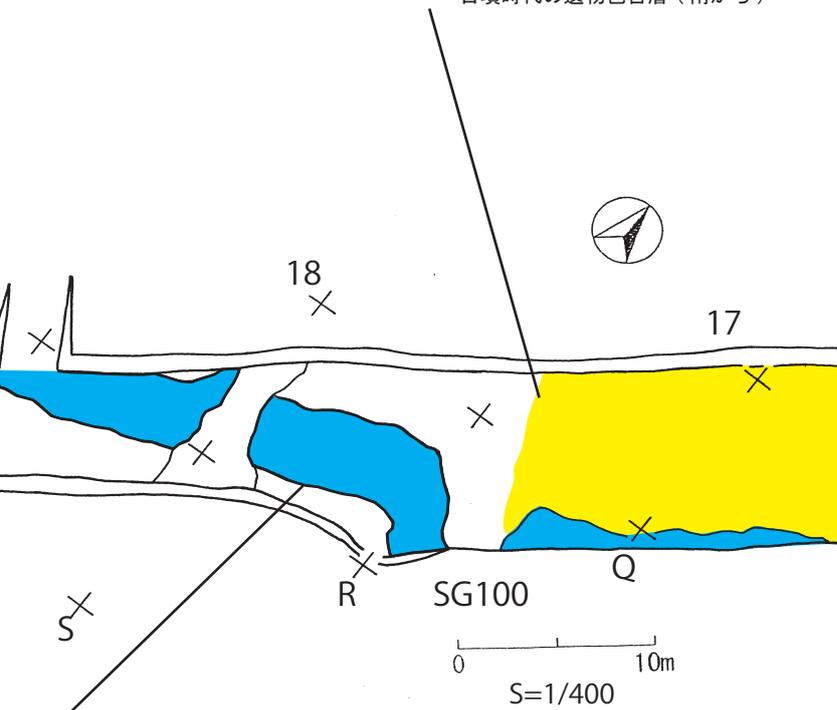
SG 100 河川跡から出土した土器（北から）



古墳時代の遺物包含層（南から）



中世館跡の区画溝（東から）



調査区東端検出の溝状遺構（南から）

Q-17 ~ X-22 グリッド遺構配置図



SG 100 河川跡全景（西から）



板材が組まれた井戸（西から）